

令和6年度 第1回 逗子市健康増進・食育推進計画懇話会 概要

日 時：令和6年5月31日（金）午後2時00分～3時30分

場 所：逗子市役所5階会議室

出席者：

【市民メンバー】 池田 カツエ、村松 雅

【関係団体】 田中 悦生（逗葉地域医療センター）、
中川 晴美（公益財団法人逗子市スポーツ協会）、
森谷 紀子（逗子市商工会）、
杵山 英廷（逗子市立小学校長会）
河原林 薫（逗子市立中学校長会）
上月 康子（鎌倉保健福祉事務所）

【アドバイザー】 北岡 英子（湘南鎌倉医療大学 看護学部公衆衛生看護学領域 教授）
駿藤 晶子（神奈川県立保健福祉大学 保健福祉部栄養学科 准教授）

【事務局】 小上馬課長、青山副主幹、稲井係長、角田、竹内、伊藤、武藤

議事概要：

1 開 会

<事務局より挨拶>

- ・保健衛生事業への協力感謝申し上げる。本計画は、令和5年3月に、それまでの「健康増進計画」と「食育推進計画」を統合して策定した。そして、計画を効果的に推進していくために本会を開始したところである。
- ・本会では、健康や食育に関する市の取り組みを紹介し、取り組みが効果的に市民の健康増進や食育推進につながっているか、より効果的なものにするためにはどうしたら良いか、市民目線や地域団体の目線からご意見をいただくことを目的にしている。
- ・昨年度は本計画を全庁的に取り組むことを目的として、本会の他、健康や食育に関わる庁内8課の担当者を集めた担当者会議を設置した。今年度も4月に開催し、各課の取り組みを互いに共有し、連携を深めている所である。引き続き忌憚ないご意見をお願いしたい。

2 議 題

【議題】

（1）昨年度の取り組みについて

<事務局より>

- ・本計画では、「逗子市の健康に関する状況」「健康・食育状況アンケート」結果などから、

- 3つの「今後取り組むテーマ」(P.75～77)を設定した。本会では、それらのテーマを推進し、進行管理していくことで、市民の健康増進・食育推進を図ることを目的としている。
- ・但し、本計画を作る段階では、「国保健康課の事業」のみを進行管理の評価の対象としており、国保健康課以外の視点が入っていなかった。アドバイザーより、「市民の健康増進や食育を推進していくためには、国保健康課だけでなく、市民や地域の組織・団体、そして庁内でも健康や食育に関わる各課が一体となって進めていくことが重要」と助言いただいたため、昨年度から庁内で健康や食育に係る8課の担当者を集めた「担当者会議」を年2回、本会の開催前に行うこととした。
 - ・今年度の担当者会議は、先日4月24日に開催。各課の取り組み状況を伝え合い、互いの事業に協力し合えるような関係となっている。これまで似たようなテーマでそれぞれ講座など行っても知らないことがあったが、担当者会議を通して情報が共有され、互いの取り組みを連携させることもできるようになった。会議後も職員同士のチャットグループを作り、気軽に連絡を取り合って事業の発展に役立てている。
 - ・昨年度の各課の取り組み状況を自己評価してもらった結果は、別紙1のとおり。各課とも各課の計画に沿って、工夫しながら概ねできていると評価している。
 - ・次に別紙2について。昨年度新たに始めた試みとして、特定健診の受診者自己負担額を1500円から無料にした。その結果、3月の速報値で受診率35.7%。令和4年度より+3.4ポイント増加。受診人数は約200人増加した。今年度も特定健診は無料で実施予定。
 - ・また、「健康栄養相談イベント Day」を始めた。主に未病センターずし市役所を会場として活用し、健康に関する様々な測定や相談を予約制で開催。健康的な生活習慣のきっかけ作りを図るもので、生活習慣病予防に関する内容などを講義し、民間企業と連携した測定などを実施。今年度も継続実施予定。
 - ・栄養・食育についても、昨年度アドバイザーの駿藤先生にご講義いただいた食育講演会の他、栄養改善教室などを実施し、いずれも参加定員に達した。
 - ・別紙1と別紙2、そして講座などで市民にアンケートを実施した結果などから、昨年度の評価を3つの「今後取り組むテーマ」ごとにまとめたものが、別紙3である。
 - ・「評価資料」と書いた項目が、担当者会議での8課のヒアリング内容と国保健康課での所見をまとめたもので、「自己評価」として4段階評価をし、それを100点換算した「得点」を記載。3つのテーマとも、「他機関との連携」、「予算確保」、「現状分析」については評価4としたが、「目標への手段」については、テーマの目標に沿った改善の余地があるものとして評価3としている。今後の担当者会議で各課にテーマに沿った取り組みの協力を仰ぎながら進めていきたいと考えている。
 - ・アウトプット・アウトカム評価は、実績値。アウトカム評価は、実施した講座などで3つの設問（「満足しましたか」「理解しましたか」「実践できそうですか」）をした内の2つが対象。「満足した・理解した」と回答した人でも、それを「実践できそうですか」となると難しいことがあり、そういう講座内容は工夫や見直しが必要となる。また、「実践できそう」

という割合が増えれば、市民の健康増進や食育推進が進められたという評価につながる。
・まだアンケートを実施したものが少なく、各課も協力可能か依頼中だが、実施したものの
ついては90%以上の評価となったため、評価4とした。この評価についていかがか。

<アドバイザーより>

Q：別紙3はどここの情報をまとめたものか。

A：別紙1、2に「今後取り組むテーマ」の番号を記載。それをまとめたものが別紙3。

Q：国保健康課で評価し、各課にその内容はフィードバックしているのか。他課の事業を
国保健康課で評価することで、内部の摩擦にならないようにしてほしい。

A：フィードバックについてはこれからである。

<メンバーより>

Q：別紙1の内容を引き取って国保健康課で事業化するというような連携はあるのか。

A：担当者会議にて各課で活発に連携を模索する雰囲気が出てきている。

Q：例えば消費生活の相談。機能性表示食品の購入不安など、根底には健康に対する不安が
ある。講座を開催するような事業化はしないのか。

A：つなげてもらう活動をしている。

Q：別紙1と2をまとめて別紙3とする関係性が難しい。

A：前回取り決めた評価軸にあてはめて作成したため、わかりづらい構造になり申し訳ない。
ご指摘の内容は担当者会議で活発に取り組んでいる。

<メンバーより>

Q：別紙3のプロセス評価、方法について。関係8課は「4」と評価しているが、別紙3で
総合評価を「3」にしたのはなぜか。担当者会議を発足するなど連携できているため「4」
でも良いのでは。

A：評価初年度でもあり、テーマの目標に沿った改善の余地があるものとして評価3とした。

<メンバーより>

Q：まちづくりの観点では、「歩道づくり」「ウォーカブルな街づくり」について推奨され
ているが、その視点は本計画に入っていないのか。

A：経済観光課とプロジェクトメンバーが取り組んでいる自然の回廊プロジェクトというも
のがあり。市内の歴史や文化に触れる場所を盛り込んだウォーキングマップを作成し、
健康増進とまちづくり的な視点を融合している。そういうものと連携して健康増進を
推進していけると思う。

<メンバーより>

Q：講座のPR方法はどのようにしているのか。参加料はあるのか。

A：PR方法は、『広報ずし』以外に市公式LINE等、SNSを積極的に活用している。

市公式LINEは反響があると感じている。市の講座の多くは参加料が無料。県が未病推
進の一環で提携企業の講座などを無料で提供してくれるものもある。提供可能な講座
一覧から市で開催したいものを選び、実施する。

Q：担当者会議の報告文書を見てみたい。協力できることもあるかもしれない。

A：有難い。検討したい。

＜アドバイザーより＞

Q：別紙3のまとめ評価、アウトカムについて。事業としてアンケート実施していないものが多く、評価できていない。国保健康課でのアンケート結果がほとんどになっている。

「アンケート結果」のみをアウトカム評価に設定することが困難だったかもしれない。他の8課のアウトカムについても検討してほしい。アンケートに限らず、手上げ方式のリアクションや、インタビューでの参加者コメントなどでも評価できるようにしておくという文言ではないか。別紙3-1での評価は再考が必要。評価方法にある「アンケートで」という文言を変更しても良いのではないか。

A：評価については再考し、アウトカム指標についても対応を検討する。

（2）今年度の取り組みについて

＜事務局より＞

・別紙4参照。今年度工夫するものを記載した。新たな取り組みとしては、「特定保健指導」について。特定保健指導というのは、40歳～64歳の国保加入者に行う特定健診において、いわゆる「メタボ予備軍」に該当する人に対し、悪化させないようにする生活指導。集団健診の中で、お腹周りが基準値を上回っている人全てに保健師や管理栄養士が声をかけ、悪化させないためのプランを立てる方針とした。また、そのプランがたてられた人には、実際の行動につなげるためのインセンティブを渡している。それが昨年度からアリーナで実施を進めている「シセイカルテ」の体験チケットである。昨年度まではトレーニング室の体験チケットを2枚渡していたが、運動習慣のない人にとっては利用のハードルが高く、利用率が伸び悩んでいた。そこで、今年度からは2枚のうちの1枚を「シセイカルテ」の体験チケットに変更し、利用しやすいように工夫した。

・「シセイカルテ」については、メンバーであるスポーツ協会から紹介していただく。

＜メンバーより＞

・「シセイカルテ」は、昨年11月から試験導入し、4月から本格始動した。

立位姿勢を2方向から撮影するだけで将来の姿勢などを予測し、状態悪化させないようにするための運動の提案などが自身のスマホで閲覧できる仕組み。

・今年度、未病センターずし市役所の「健康栄養相談イベント Day」とも協働している。

＜事務局より＞

・40代男性をターゲットに、健診や事業に参加のない層へのアプローチとしてスマートフォンのアプリを活用した「ゲットキャンペーン！」を今年度も継続する。市政70周年イベントとしても実施し、経済観光課と連携し、市内の特産品を賞品として設定する。

・その他、栄養・食育関連事業として、商工会や食品衛生協会と連携し、飲食店のプロの料理人から料理を学ぶイベントを企画する。

<メンバーより>

Q：ゲットキャンペーンについて、社会福祉課との関係はどのようになっているか。

A：同じアプリを活用しており、時期も重なるので、互いに周知するなど協力関係がある。

対象者や景品の有無などの違いがあるため、協力しつつ、互いの事業を進めている。

<アドバイザーより>

Q：計画の視点では、別紙2の昨年度実績を元に今年度の計画を立てているという認識だが、特定健診や特定保健指導、イベントデーの継続判断など、昨年度評価と今年度の方針の関連性が見えてこない。

A：昨年度の結果や評価を踏まえて今年度の事業方針を決定しているが、紙面に反映できるよう改善する。

<メンバーより>

・計画 P.80 に食習慣についての目標の記載があるが、どのように評価するのか。この指標のまま評価を想定すると、おそらく変化がないのではないかと感じる。例えば、若い世代からの食育では、節目で食育指導を実施するなどしてはどうか。中学3年生の進路決定後の時間など余裕があるのではないか。中学3年生は特に大切なライフステージ。「これからは自分で食事を準備することもあるかもしれない」という話の中で朝食欠食の影響などの話ができると良いのではないだろうか。

・また、以前の活動でヨガを中学3年生対象に実施したところ、男子生徒から「なかなかヨガを体験する機会がないため、体験できてよかった」といった声があった。

<メンバーより>

・現在ピラティス講座が人気である。定員を拡大しようか検討中。男性の参加もある。

<メンバーより>

・災害時の炊き出し訓練など行っており、災害時の食事管理に関心がある。災害を想定した平時からの食生活が重要と考える。避難先での生活などを想定して色々準備している。

<事務局より>

・能登へ被災地派遣を経験した管理栄養士に講座をしてもらう予定。連携していきたい。

<メンバーより>

Q：広報ずし6月号に被災地派遣した保健師の記事があったが、被災地の様子を聞きたい。

A：県の一員として2月末から5泊6日で珠洲市の本部支援として派遣された。珠洲市には発災後から外部の支援団体が多く入ったが、2月末で撤退する団体も多く、外部支援に頼っていた状況から、地域内で支援体制を整えるための会議が繰り返されており、その会議録や資料作りを担当した。珠洲市としては断水が続いており、「撤退されては困る」という状況の中、支援継続を希望するならば支援規模や内容などを具体的に挙げる行政手続きが必要で、対応に混乱する状況を目の当たりにした。また、保健・医療・福祉分野で連携した市の支援体制の構築が必要となっており、平時からの横のつながりの重要性や災害時の備え、訓練の重要性を感じた。

<市民メンバー>

- ・阪神大震災の際に、給食室のスタッフで炊き出しをした。学校の施設は使用できず、ボンベや調理器具含めトラック4台で向かった。道路状況も震災の影響を受けて、目的地まで長時間かかった。中・高生もボランティアとして加わった。炊き出しと言っても簡単にできないので、準備が必要と感じた。

3 そ の 他

<メンバー（関係団体）より>

《逗葉地域医療センター》

- ・特定健診受診料無料の影響で受診率は向上したが、それでも35%程度。市民・町民の意見を踏まえて、健診受診率向上につながるのであれば、受診勧奨もしていきたいと考えている。受診歴のない人に受診勧奨をすると効果的なのではないか。

《逗子アリーナより》

- ・今年度、シセイカルテで市とコラボしている。初回5/23実施し、大変好評だった。その後の入会率についてもしっかり追跡したい。

《逗子市商工会より》

- ・市は生ごみを捨てるにもお金がかかるため、生野菜の摂取を控え、コンビニやスーパーの総菜に偏りがちになる印象がある。家庭用生ごみ処理容器等購入費助成金制度で「バクテリア de キューロ」や「ルーフェン」（生ごみ乾燥機）の購入補助が得られるため、制度の存在についても情報提供すると良いのではないか。

《逗子市小学校校長会より》

- ・小・中学校ともに校長経験あるが、中学生は進路決定後もスケジュールがタイト。受験日程が前倒されて以前よりも期間が長く、卒業式に向けた準備や様々な練習、その時期を狙っての講義（デートDVや性教育の講座）を入れている。食育に対する啓発は、特定の時期に限らず全体としての取組みとして実施すると良いのではないか。
- ・「三つ子の魂百まで」という言葉があるように、小学校教育の責任は大きいと感じている。給食時間の放送（12:20~13:00）では、はじめに給食室から発信し、その日のメニューや栄養に関するクイズなどを栄養士が実施している。前日の給食の様子（残食の有無や内容など）が栄養士から報告されるが、初めて提供するもの・馴染みのないもの・見た目の問題で残食が増える傾向がある。学校でも努力しているが、家庭でも取り組めると良い課題である。子育て支援課・保育課でも取り組んでいるようだ。

《逗子市中学校校長会より》

- ・中学生最後のタイミングでの食育普及の重要性についてコメントをいただいたが、食育については全体のカリキュラムの中で実施している。市と連携して管理栄養士を派遣してもらい、中学1年生を対象に食育の講座をしている。3年生では未実施のため検討したい。

<鎌倉保健福祉事務所より>

- ・健診予約制だと、毎回予約開始直後に申し込んでくるリピーターがいるはず。そのトップ集団を巻き込んでアンバサダーとして活動してもらうのはどうか。お友達を誘ったらインセンティブ贈呈するなども一案。無料化はすぐ馴染んでしまうのではないか。
- ・道路を整えてほしい。夜道を歩くことの恐ろしさなどは、声を上げていく必要を感じる。
- ・広域的な役割のある立場から逗子市を見ると、コンパクトな地域ならではの顔の見える関係構築が可能であり、やりやすさ・やりがい・楽しさあるのではないか。

<アドバイザー>

- ・SDGs の概念を計画に入れて、目標を共有しやすくしている自治体もある。
- ・担当者会議による効果・成果が見えにくいため見えるように工夫すると良い。どんどん表に出していき、担当者会議に参加している課以外にもアピールしていくと良いのでは。

<アドバイザー>

- ・活発な意見交換がされており、素晴らしい。
- ・計画の縦糸と横糸をがっちり組めるような情報の統合、見せ方が大切。具体的な方法についてアドバイザーとしても一緒に検討したい。

4 閉会

<事務局より>

- ・様々なご意見をいただきありがたい。役所の構造は縦割りとよく言われるが、横のつながりをさらに強化しないと目標を達成できないものもある。報告方法などは修正し、わかりやすい形にしていきたい。関係団体の皆様には引き続き協力をお願いしたい。
- ・次回は、令和7年3月18日（火）14：00から実施予定。

以上